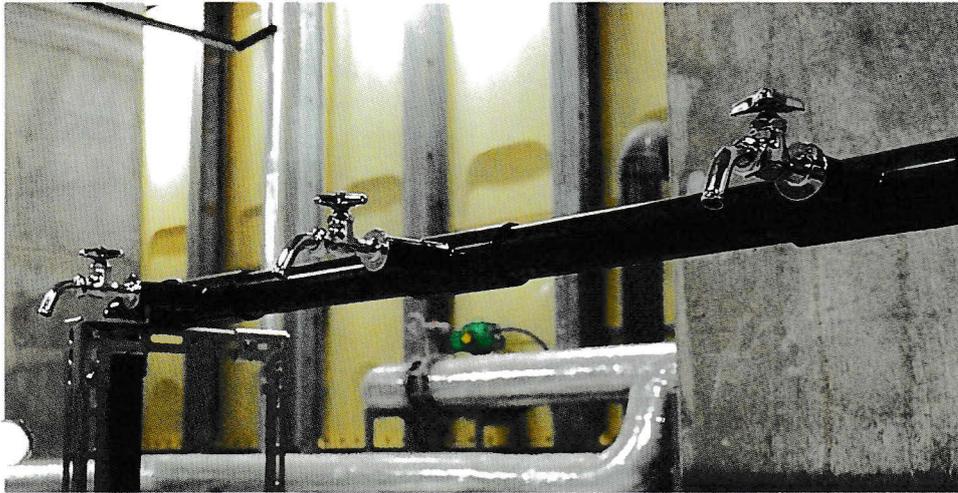




断水すると



口) が設けてあります=写真。しかし水の重さは尋常ではありません。3人家族の3日分の飲み水(27L)はそのまま27kgもあるのです。

■リアカーの給水車

こんなに大事な水が何日も止まってしまったのではパニックです。幸いみなとみらい地区は恵まれた環境にあって、高島中央公園(1500m³)、ヨーヨー広場(1000m³)、臨港パーク(700m³)の3カ所に災害用大型貯水槽があります。合わせてざっと36万人の3日分(飲料水換算)です。

復旧が長引けば“給水班”を多数編成し、リアカーにポリタンクを積んで汲みに行くこととなりますが、その水も果たして持ちこたえられるかどうか。市の構想ではこの3つの大型貯水槽でも発生4~7日目の第1次復旧(1人10L給水)は「部分実施」という厳しい状況のようです。

■飲料水は1人1日3リットル

ミッドスクエアで使う水道は、ふだんは地下1階の受水槽に常時325m³(tと同量)を蓄え、圧力ポンプの働きで各戸へ送られています。ヒトは毎日、1人当たり245Lの水を使いますから、ミッドの場合、650世帯が3.6人家族だとして受水槽約2杯分を使っていることとなります。

それが非常の場合、飲料水は3L、トイレ用水7L、炊事、洗面、洗濯などを加えた最低生活を営む必要量は計20L(1人分)だけに限定されます。使う傍から新鮮な水が補充されている日常のありがたさがここにあります。

■地下の受水タンクでも給水

断水した当座、受水槽にはかなりの水が残っているのでそれは使えます。ただ停電しているので上階へのポンプアップができず、希望者には受水槽から直接汲んでもらうこととなります。すでに、地下の「住宅用受水槽ポンプ室」には、そのための配管や蛇口など給水施設(6

■とにかく備蓄を

災害対策本部ではふだんから被災後の飲料水の備蓄に務めていますが、あくまでも非常用(被災4日目から)です。自家用のそれは各自で用意していただくこと、いうまでもありません。

「備蓄」と「節約」と「思いがけない労働」も迫られそうな水問題です。